

上級生による1年生への学修支援の実践報告

古川 文人

帝京大学理工学部ヒューマン情報システム学科

概要

本学理工学部ヒューマン情報システム学科において、メンタリングアワーと呼ぶ上級生による1年生への学修支援を2013年度および2014年度に計65回実施した。メンタリングアワーの目的は、授業時間外の学修支援の充実と、学生同士の交流機会の増加の2点である。

1. はじめに

本学理工学部ヒューマン情報システム学科において、課題レポートの提出が滞るなど学修活動を円滑に進められない学生に対する学修支援として、オフィスアワーでの教員による指導や学習支援室での指導だけでは、十分ではないと感じている。オフィスアワーは敷居が高いせいか、学生がなかなか質問に来ないというのが実情である。学習支援室では情報リテラシー、プログラミング等、専門科目への学修支援は対象としていない。

また、同じ学科に所属する学生同士が同級生同士あるいは学年を越えてコミュニケーションする機会が少なく、学生同士のつながりが希薄であるという問題が学科内の教員から指摘されている。他の学生との交流がなく、孤立化することでドロップアウトにつながるケースも見受けられる。

以上の問題に対して、「メンタリングアワー」[1]という上級生による学修支援を本学科の取り組みとして2013年度前期から実施している。

メンタリングアワーの実践に至るまでの経緯は、次の通りである。2012年度後期の1年次の必修授業において、課題レポートの提出が遅れた学生のケアのために、授業時間外に課題に取り組

む時間と教室を設定し、上級生による学修支援を数回試行したところ、一定の効果が見られた。学修支援による効果に加えて、学生同士の交流機会の増加が期待できると考えた。

メンタリングアワーでは、学生に対して、上級生(メンター)から授業時間外に学修支援を受けられる場所と時間を提供する。メンタリングアワーの目的は、授業時間外の学修支援の充実と、学生同士の交流機会の増加の2点である。

2. 実践方法

2.1 概要

2013年度および2014年度に実践したメンタリングアワーの概要は次の通りである。

対象者は、ヒューマン情報システム学科の各年度の1年生である。2013年度は56名、2014年度は48名である。主な学修支援内容は、前期では、情報基礎1、プログラミング1の授業内容、後期では、情報基礎2、プログラミング2の授業内容である。いずれの科目も必修科目である。実施は、授業期間中の毎週1回とした。ただし、2013年度後期は、週2回の実施を試行した。実施場所は、コンピュータ教室である。

メンタリングアワーを対象学生に周知するために、情報基礎1,2の初回授業で説明するとともに、掲示により案内した。また、メンタリングアワーの活用を促すために、情報基礎1,2、プログラミング1,2の授業において、学修支援が必要な学生に個別に声をかけて支援を受けるよう指導したり、課

題に取り組む上で困難が生じた場合はメンタリングアワーを活用するよう全員に呼びかけた。

2.2 実施時間の設定

メンタリングアワーの時間の設定に際しては、次の3点を考慮した。すなわち、1)1年生向けの授業が開講されていない時限であること、2)直前の時限に多くの1年生が履修する授業があること、3)メンターの都合がつくことである。

2.3 メンターのチーム構成と運営

メンターは、ラーニングテクノロジー開発室の学生アシスタント(LTA)のうち、ヒューマン情報システム学科に所属する2~4年生から、筆者が適任と判断したLTAを選定した。これらのメンターでチームを構成し、各週の担当の決定やスケジュール調整については、チームのリーダーとサブリーダーを決めた上で、基本的にメンターらに任せた。なお、メンターには、メンタリングアワーに出席した時間に応じて、LTAの給与制度に沿った給与を支払った。

2.4 メンターへの指導と情報共有

メンターと関係教員との情報共有のために、LMSのコミュニティを用いた。次回のメンタリングアワーの出席者数の見込みや、学修支援についての細かな指示を、教員からメンターに連絡するために、LMS上のメール機能を利用した。また、各回のメンタリングアワー実施後には、担当したメンターがLMS上の掲示板に報告をするようにした。また、メンターを情報基礎1,2、プログ

表1 メンターチームの人数構成

	合計	4年	3年	2年
2013年度前期	7	3	4	0
2013年度後期	10	5	4	1
2014年度前期	9	6	3	0
2014年度後期	12	6	3	3

ラミング1,2のLMSコースに学生として登録することで、課題の内容などを共有した。

3. 実践結果

表1に、各年度のメンターチームの人数構成を示す。表2に、メンタリングアワーにて学修支援を受けた学生(メンティー)ののべ数、実施合計時間、メンターののべ数、実施回数、メンティーが活用しなかった回数の合計数を示す。なお、学修支援を求める学生がメンタリングアワーの開始から1時間経過してもいない場合は、終了時刻を待たずに終了した。

4. 学生へのアンケート結果

2013年度前期、後期、2014年度前期のメンタリングアワーについて、1年生にアンケートを実施した。それぞれ、42名、49名、34名から回答が得られた。

表3に、質問「メンタリングアワーに参加しましたか？」への回答を示す。一定数の学生の活用があったことがわかる。表4に、参加したメンティーに対する質問「何回メンタリングアワーに参加しましたか？覚えている範囲で教えてください。」への

表2 メンタリングアワーの実践結果

	メンティーのべ数	実施時間	メンターのべ数	実施回数	活用のなかった回数
2013年度前期	57	43:20	29	13	4
2013年度後期	115	56:20	53	26	8
2014年度前期	42	14:20	27	13	6
2014年度後期	39	23:20	23	13	2

表 3 「メンタリングアワーに参加しましたか？」に対する回答

	はい	いいえ
2013 年度前期	21(50%)	21(50%)
2013 年度後期	18(37%)	31(63%)
2014 年度前期	14(41%)	20(59%)

※括弧内は割合を示す。

回答を示す。表 5 に、参加したメンティーに対する質問「参加してみてどうでしたか？」への回答を示す。概ね肯定的な評価が得られていることがわかる。

参加したメンティーに対する質問「メンタリングアワーに参加してみて、具体的にどんなところがよかったか、よくなかったのか意見があれば教えてください」への回答をまとめると、次の通りである。よかったという意見には、気軽に質問しやすい、詳しく教えてもらえるという旨の回答が多く見られた。よくなかったという意見では、教えられてもわからない、メンターも教えられないことがあったという旨の回答があった。

また、1 度も参加しなかった学生に対する質問

「参加しなかった理由があれば教えてください。」への回答をまとめると、大きく 2 つに分けられる。すなわち、独力で課題に取り組めたために参加しなかった、何らかの支援が必要だったが参加しなかった、の 2 つである。後者については、友人やサークルの先輩に質問して解決した、時間帯が合わなかった、なんとなく参加しにくかったという旨の回答があった。

5. おわりに

2013 年度および 2014 年度において、ヒューマン情報システム学科 1 年生を対象に、メンタリングアワーを計 65 回実施した。学修支援を受けた学生はのべ 253 名、支援活動を行ったメンターはのべ 132 名であった。メンタリングアワーにより学修支援の機会を増やすことができた。

謝 辞 メンタリングアワーを運営するにあたり、ご協力、ご助言を頂きました本学理工学部ヒューマン情報システム学科(現情報電子工学科)の関係教員のみなさまに感謝申し上げます。

表 4 「何回メンタリングアワーに参加しましたか？覚えていた範囲で教えてください。」に対する回答

	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回以上
2013 年度前期	9(43%)	4(19%)	6(29%)	0(0%)	2(10%)
2013 年度後期	7(39%)	2(11%)	2(11%)	1(6%)	6(33%)
2014 年度前期	9(64%)	2(14%)	1(7%)	1(7%)	1(7%)

※括弧内は割合を示す。

表 5 「参加してみてどうでしたか？」に対する回答

	よかった	どちらかという とよかった	どちらかという とよくなかった	よくない
2013 年度前期	14(67%)	6(29%)	1(5%)	0(0%)
2013 年度後期	11(61%)	6(33%)	0(0%)	1(6%)
2014 年度前期	8(57%)	3(21%)	3(21%)	0(0%)

※括弧内は割合を示す。

参考文献

[1] 加藤 博昭, 永井 遼, 鈴木 和典, 近藤 肇,
“学修を支援する LTA の取り組み”, 帝京大学ラ
ーニングテクノロジー開発室 10 周年記念シンポ
ジウム, [http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/activity/
10symp/poster/10th-poster-lta.pdf](http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/activity/10symp/poster/10th-poster-lta.pdf), 2015/08/06 ア
クセス